

公社等外郭団体の概況

1 公社等外郭団体の概況

(1) 公社等外郭団体とは

福岡県において、その設立や運営を指導することとしている団体（「公社等外郭団体」と呼びます。）は、次のような団体をいいます。

- ① 県の出資金、出捐金の割合が基本財産等の50%以上の団体
- ② 県の出資金、出捐金の割合が基本財産等の25%以上であり県の出資割合が最も大きく、かつ県が補助金や委託費などの財政支出等を行う団体（国、特殊法人等（以下「国等」という。）の関与が強く、国等の指導に委ねることが適当と認められる団体を除く。）
- ③ 上記のほか、県の行政と密接な関係を有しており、適切な指導が必要な団体

公社等外郭団体の数は、下記のようになっています。

公益財団法人	20団体	公益財団法人	20団体
特別法人	3団体	特別法人	3団体
社会福祉法人	1団体	社会福祉法人	1団体
株式会社	1団体	株式会社	1団体
合計	25団体	合計	25団体

(令和6年4月時点)

(令和7年1月時点)

令和5年度経営評価の対象団体は、令和6年4月時点の25団体です。

(2) 公社等外郭団体一覧 (25 団体) ※令和6年4月1日時点

○公益財団法人 (20 団体)

公益財団法人福岡県国際交流センター
公益財団法人アクロス福岡
公益財団法人福岡県女性財団
公益財団法人福岡県スポーツ推進基金
公益財団法人福岡県動物愛護センター
公益財団法人福岡県生活衛生営業指導センター
公益財団法人福岡県人権啓発情報センター
公益財団法人福岡県リサイクル総合研究事業化センター
公益財団法人福岡県中小企業振興センター
公益財団法人福岡県産業・科学技術振興財団
公益財団法人飯塚研究開発機構
公益財団法人水素エネルギー製品研究試験センター
公益財団法人福岡県農業振興推進機構
公益財団法人福岡県水源の森基金
公益財団法人福岡県豊前海漁業振興基金
公益財団法人福岡県建設技術情報センター
公益財団法人福岡県下水道管理センター
公益財団法人福岡県暴力追放運動推進センター
公益財団法人福岡県スポーツ振興センター
公益財団法人福岡県教育文化奨学財団

○特別法人 (3 団体)

福岡北九州高速道路公社
福岡県道路公社
福岡県住宅供給公社

○社会福祉法人 (1 団体)

社会福祉法人福岡県厚生事業団

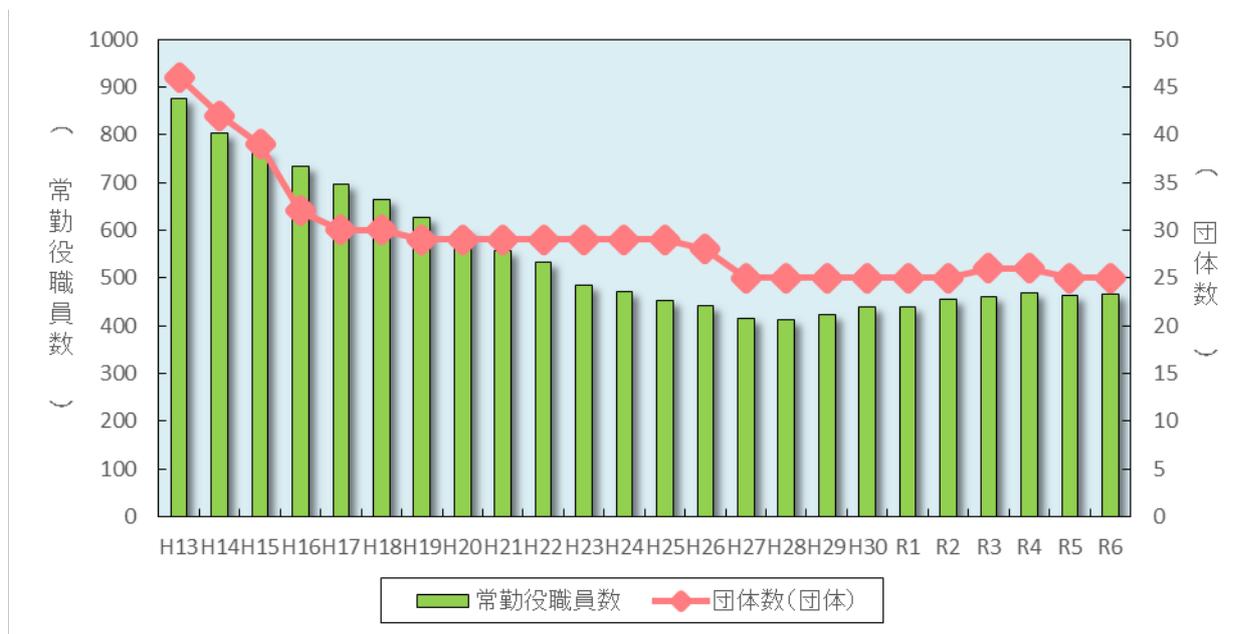
○株式会社 (1 団体)

平成筑豊鉄道株式会社

(3) 公社等外郭団体の現状

ア 公社等外郭団体数等の推移

年度	H13		R2	R3	R4	R5	R6	増減(対R5)	増減(対H13)
団体数(団体)	46		25	26	26	25	25	0	▲ 21
常勤役職員数	876		455	460	469	463	466	3	▲ 410
役員数(名)	54		37	38	38	37	36	-1	▲ 18
職員数(名)	822		418	422	431	426	430	4	▲ 392



※ 団体数及び常勤役職員数は、各年度4月1日（H23のみ5月1日）時点のもの。
平成30年度より、役員改選を理由とする一時的な減は反映していない。

(a) 団体数

団体数は、令和6年4月1日現在で25団体となっており、改革実施前の平成13年度と比較すると21団体の減少となっています。

これは、(財)福岡県水源の森基金など林業振興、緑化推進等関係4団体の統合、(財)福岡県奨学会など教育文化、人づくり関係3団体の統合、並びに(財)福岡県スポーツ振興公社などスポーツ振興関係3団体の統合や、(財)福岡県労働福祉公社、福岡筑豊都市鉄道開発(株)、(財)グリーンピア八女、福岡県土地開発公社、(公財)福岡県地域福祉財団の解散などによるものです。

(b) 常勤役職員数

常勤役職員数は、令和6年4月1日現在で、466人（前年度比0.65%増）となっています。

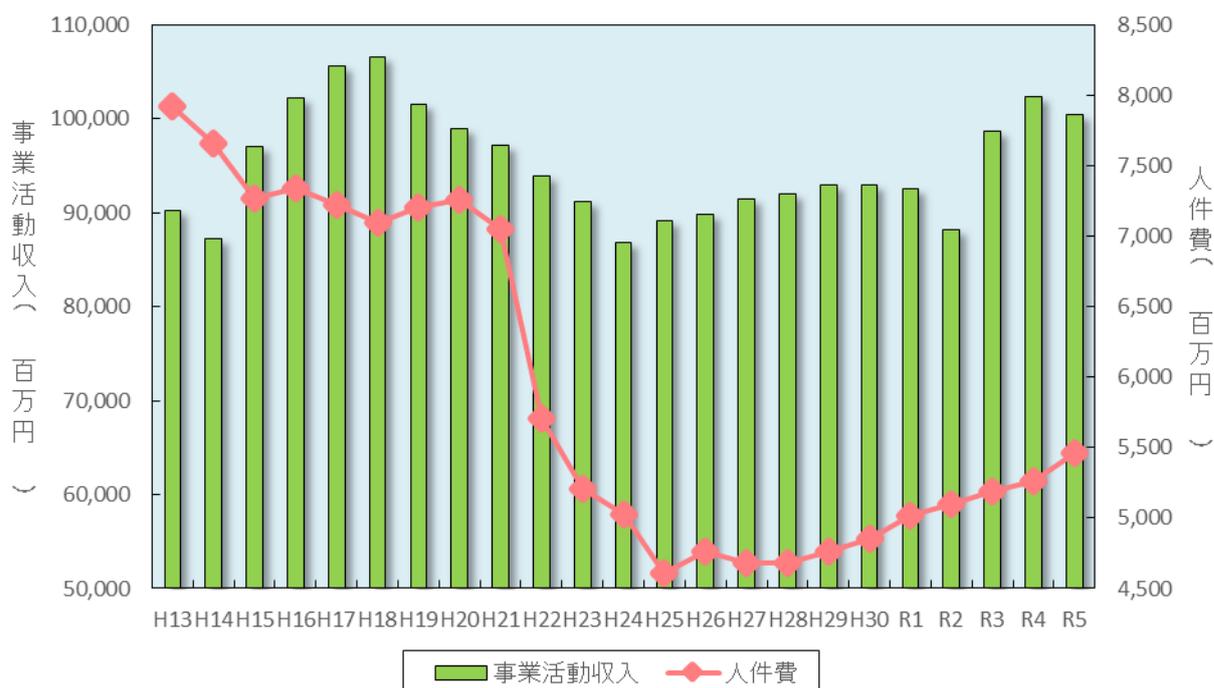
改革実施前の平成13年4月1日と比較すると、410人の減少（対13年度比46.8%減）となっています。

イ 人件費の状況

(単位:百万円)									
年度	H13		R1	R2	R3	R4	R5	増減(対R4)	増減(対H13)
①事業活動収入(売上高)	90,242		92,528	88,193	98,717	102,296	100,473	▲ 1,823	10,231
②人件費	7,923		5,013	5,013	5,188	5,264	5,464	200	▲ 2,459
②÷① 人件費率	8.8%		5.4%	5.7%	5.3%	5.1%	5.4%	0.3%	-3.4%

(注)表示単位未満四捨五入の関係で、数式による算出値と表示が一致しない場合がある。

経営評価対象団体の事業活動収入及び人件費の推移



※ 事業活動収入：総収入から、積立・引当預金の取崩、固定資産や有価証券の売却、借入金収入を除いたもの。新会計基準移行公益法人は経常収益。株式会社等は売上高。

【人件費の状況】

令和5年度の人件費の総額は約5.5億円となっており、前年度と比較すると約2億円の増となっています。

なお、改革実施前（平成13年度）と比較すると、経営評価対象団体の事業活動収入の総額は約10.2億円増加する一方で、人件費の総額は約2.5億円減少しています。

また、人件費率については改革実施前（平成13年度）の8.8%から、5.4%と3.4ポイント減少しています。

人件費の総額の減少は、平成22年度に県派遣職員に対する給与支給方法を見直したことに伴う減によるものです。

ウ 県からの財政支出の状況

(単位:百万円)

年度	H13		R1	R2	R3	R4	R5	増減(対R4)	増減(対H13)
出資金	13,226		362	489	▲ 49	162	268	106	▲ 12,958
貸付金	9,153		546	918	10	83	1,004	921	▲ 8,149
補助・負担金 委託料	15,437		14,789	18,916	23,787	24,757	21,967	▲ 2,790	6,530
合計	37,816		15,696	20,322	23,747	25,003	23,239	▲ 1,764	▲ 14,577

(注) 表示単位未満四捨五入の関係で、数式による算出値と表示が一致しない場合がある。

【県からの財政支出の状況】

経営評価対象団体に対する財政支出については、事業の政策的必要性の点検評価や、団体の努力による収入増などにより、歳出抑制に努めているところです。

加えて、団体に対して過年度に支出した出資金や貸付金についても、計画的に返戻・返還を実施しています。

令和5年度の県財政支出は、前年度と比べ約18億円減少しています。

(増減の主なもの)

出資金、貸付金の増は、福岡北九州高速道路における建設事業費の増加によるもの。

補助・負担金の減は、中小企業振興センターにおける新型コロナウイルス感染症関連支援事業の実施にかかる県補助金の減少などによるもの。

2 公社等外郭団体経営状況

決算分析の対象とした公社等外郭団体の決算の概況は、以下のとおりです。

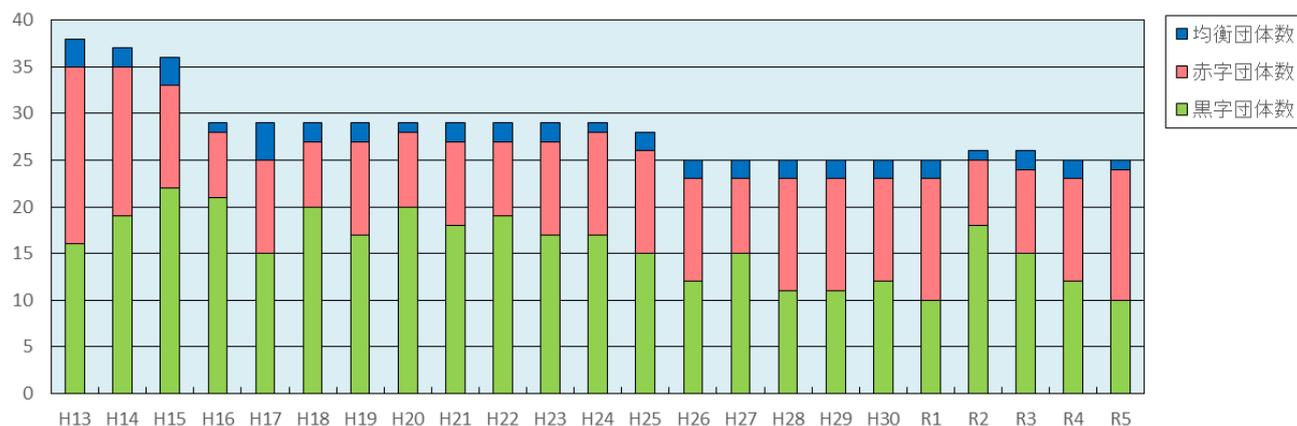
(1) 当期損益

公益法人・社会福祉法人は正味財産が増加した団体を黒字、減少した団体を赤字としています。株式会社及び特別法人は当期利益（損失）としています。ただし、地方道路公社は、償還準備金繰入前損益としています。

(単位:団体数)

年度	H13	H30	R1	R2	R3	R4	R5
黒字団体数	16	12	10	18	15	12	10
赤字団体数	19	11	13	7	9	11	14
損益均衡団体数	3	2	2	1	2	2	1
合計	38	25	25	26	26	25	25

評価対象団体の当期損益推移



単年度収支が黒字の団体は、10団体となっています。

(2) 累積損益

(単位:百万円)

年度	H13	H30	R1	R2	R3	R4	R5	
剰余金	団体数	32	21	21	22	22	21	21
	金額	15,270	18,706	19,322	20,454	20,997	20,153	20,084
欠損金	団体数	3	2	2	2	2	2	2
	金額	▲ 945	▲ 2,512	▲ 2,579	▲ 2,330	▲ 2,624	▲ 2,795	▲ 3,033

※特別法人・株式会社 : 剰余金又は繰越欠損金

※公益法人・社会福祉法人 : 「正味財産合計」-「基本金等の額」(新公益法人会計基準採用年度以降は「一般正味財産の額」-「基本財産への充当額」)

(注) 表示単位未満四捨五入の関係で、数式による算出値と表示が一致しない場合がある。

(注) 剰余(欠損)金がない団体は表中に含まない。

剰余金を有する団体は21団体で、改革実施前(平成13年度)と比較すると、団体の統廃合等の影響により11団体減少しています。

一方、欠損金を有する団体は2団体となっております。

欠損金を有する団体の決算状況

(単位:千円)

団体名	直近3年間の累積損益の状況			〔参考〕直近3年間の単年度収支(損益)の状況		
	R3末	R4末	R5末	R3末	R4末	R5末
平成筑豊鉄道(株)	▲ 194,537	▲ 198,015	▲ 256,088	16,703	▲ 3,478	▲ 58,073
(公財)福岡県教育文化奨学財団	▲ 2,429,066	▲ 2,596,649	▲ 2,777,179	▲ 310,783	▲ 167,582	▲ 180,531

- 「平成筑豊鉄道(株)」は、平成26年3月に策定した経営改善のためのアクションプランに基づき、利用促進強化に取り組んでおります。地域公共交通を取り巻く環境は、人口減少や新型コロナウイルス感染症の影響等により厳しい状況にあり、利用者数、旅客運賃収入は前年度より改善したものの、豪雨災害復旧費の増などにより、令和5年度は赤字決算となっています。

引き続き、観光列車事業等、収入源の確保に努めるとともに、更なる経費圧縮に取り組み、収支改善を図ることが必要です。

- 「(公財)福岡県教育文化奨学財団」は、貸倒引当金について、平成25年度に債権区分ごとに引当率を設定し、貸付先の回収可能性を勘案した算定方法に改めたため、12億円余りの経常外費用を計上しました。また、令和3年度は貸倒引当金の算定方法を変更したことにより、経常外費用が増加しました。

一般正味財産期末残高は赤字になっていますが、指定正味財産期末残高を合算した法人全体の正味財産期末残高は黒字となっており、法人の運営上は差し支えありません。

3 中期経営計画における改善目標の達成状況

令和4年度に策定した中期経営計画における改善目標について、各団体の達成状況は、団体毎の経営評価シートをご参照ください。